

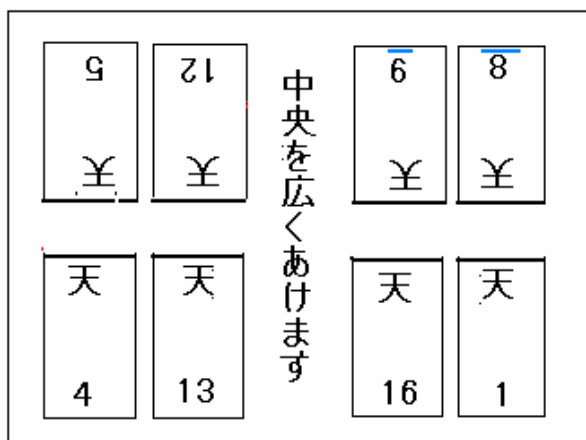
製本のススメ

Vol. 23

あ～ もう幾つ寝るとお正月でしょうか 忘年会も入っているし、まさに師も走るというのが、ピッタリですね。新しい手帳には新年会の予約も書き込まないといけません。時間も無ければお金も無い でもしっかり遊びましょう。

今回は【**刷り本は断裁しないで折る③**】のお話

シリーズ3回目になりましたが、より早くより綺麗な製本をするために、針クワエを断裁しない事は、必要不可欠です。そこで今回は16頁中綴じ・本掛け(左開き天袋片面)の面付けを例にして説明しましょう。



並製本用と違い中綴じ製本には**ラップ**と呼ばれる機械のクワエ部分が必要です。16頁折りを、**中央から用紙を広げる役割に欠かせない余白**です。この余白分を作る為に、**用紙の中央を広くあけます**。天ドブは通常の4ミリドブで(4・4)の8ミリあいていればOKですが、このラップ部分は8ミリ～10ミリ程度を左右に取りますので **16ミリ～20ミリ**ほどの、余白ができる事になります。
※余談ながら用紙や厚みによっては、折でシワが出易くまた、見開きでの絵も合いにくい事から、美術性の高いものには薦められない折方でもあります。



Teabreak

本は他のメディア商品とは比べ物にならない程長い歴史があり、この本への商品化技術を製本と言いますが、最終工程であることから、短納期対応の中で時間短縮のみが優先されて、製本の役割や高付加価値性を見失っていないでしょうか。印刷産業の不可価値はプリプレス分野だけのものではありません。企画段階での**製本加工の知識**は、顧客満足度アップに陰ながらも**必ず大きな力**となるはずです。2月には新しい設備に衣替えし、パワーアップして今まで以上に、皆さんの役に立てると確信しています。来年も**井関製本と製本のススメ**を、ぜひ活用してください。

by (株) **井関製本**